茨城県行方郡玉造町

オチャク内貝塚発掘調査報告書

２００３年3月

玉造町遺跡調査会
玉造町教育委員会

例　　言

1　本報告書は、茨城県行方郡玉造町大字捻木489番1に位置するオチャク内貝塚遺跡部分の発掘調査報告書である。

2　本調査は、町道1,862号線の改良舗装工事に伴う事前調査である。

3　本調査は鹿行文化研究所の汀　安衛が担当した。
調査は、平成14年3月24日に予備調査を行った。本調査は同年11月19日～21日までの3日間である。

4　調査部分は、宅地、町道や畑地耕作等かなりの部分が欠失した可能性があるが、一部山林等のため良好な状態で遺存する部分も見られる縄文中期の遺跡である。

5　調査会組織

会　長	大　崎　博　之	（玉造町教育委員会教育長）
副会長	風　間　亨　夫	（玉造町文化財保護審議会会長）
理　事	宮　崎　幸　男	（玉造町文化財保護審議会副会長）
	鈴　木　亮　然	（玉造町文化財保護審議会委員）
	八　木　　操	（玉造町文化財保護審議会委員）
	笹　月　吉　久	（玉造町文化財保護審議会委員）
	田　宮　み　つ	（玉造町文化財保護審議会委員）
	小　沼　政　雄	（玉造町文化財保護審議会委員）
	堀　田　好　男	（玉造町文化財保護審議会委員）
	汀　　安　衛	（鹿行文化財研究所長、調査主任）
監　事	田　山　信　男	（玉造町文化財保護審議会委員）
	大　場　浩　一	（玉造町文化財保護審議会委員）
事務局	重　田　順　爾	（玉造町教育員会生涯学習課長）
	中　田　美代子	（玉造町教育委員会生涯学習課社会教育係長）
	森　作　知　代	（玉造町教育委員会生涯学習課社会教育主事）
	磯　山　智　也	（玉造町教育委員会生涯学習課主事）

6　本調査に際し、多くの方々に協力を受けた。記して感謝の意を表したい。
茨城県教育庁文化課、茨城県立歴史館、鹿行教育事務所、玉造町教育委員会、玉造町建設課、玉造町中央公民館、玉造町文化財顕彰会
高埜栄治、池畠正夫、森作保繁
調査協力者　横田泰隆、菅谷益尚、徳利初代、西田和子、郡司ひで子、藤崎愛子、山野みづ江
地　　主　山野廣元氏、表土除去　橘川英治氏

凡　　例

1　本報告書はオチャク内貝塚遺跡部分の町道拡張部面積70㎡の発掘調査報告書である。

1　調査までは畑地として利用されていたため、多くの攪乱が認められた。

1　調査は玉造町建設課の協力を受け実施した。

目　　次

例　言
凡　例
目　次
図　版　目　次
第1節　遺跡の位置と環境……1
第2節　調査に至る経緯と調査日誌
　1　調査に至る経緯……2
　2　調査日誌……2
第3節　調査の概要
　1　遺構と遺物……2
　　1号住居跡……3
　　2号住居跡……5
　　3号住居跡……6
　　1号土坑……8
　　2号土坑……8
　　3号土坑……8
　　4号土坑……8
　　5号土坑……8
総　括……10

挿　図　目　次

第1図　遺跡の位置と環境……1
第2図　遺構全測図……3
第3図　1号住居跡と出土遺物……4
第4図　2号住居跡と出土遺物……5
第5図　3号住居跡と出土遺物……7
第6図　土坑1号、2号、3号、4号、5号土坑と出土遺物……9

図　版　目　次

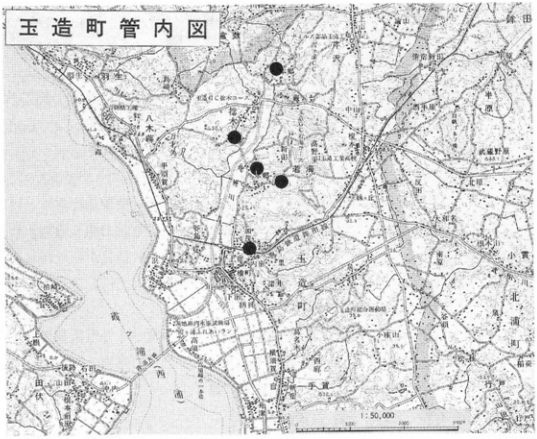
PL－1　調査区全景　1号住居跡全景、出土遺物　2号住居跡、出土遺物……11
PL－2　2号、3号住居跡全景、出土遺物、1号土坑、2号土坑……12
PL－3　3号土坑、4号土坑、5号土坑　各遺構出土遺物……13

第１節　遺跡の位置と環境

本遺跡は茨城県行方郡玉造町大字捻木489番１外に所在している。霞ヶ浦東岸に位置し、町の中央を流れる梶無川の中流域右岸、標高30mの台地上に占地している。古くからオチッヤク内貝塚として知られ、ハマグリ、アサリ、シオフキ、アカニシ等の貝類が認められている。現在は宅地としてかなり撹乱が見られ、規模や時期、範囲は明確ではないが、遺物の表面採取される範囲は１haに及ぶ。

梶無川は行方台地屈指の河川で、その流域には縄文人骨がほぼ完全に近い状態で出土した若海貝塚をはじめ、原田古墳群、捻木古墳群や石入間窪遺跡、倉数芹沢界遺跡等が見られ、中世の玉造城跡、石神館跡、芹沢城跡、捻木館、蕨館、山中館が見られる。

こうした遺跡群の中に位置している本遺跡は、縄文中期主体という特異性が見られ、流域の遺跡を研究する上で重要な位置を占める。



第１図　遺跡の位置と環境

第２節　調査に至る経緯と調査日誌

１　調査に至る経緯

玉造町は、主要基幹道路である国道355線と行方台地を走る主要地方道水戸神栖線が縦断し、これらを国道354線、県道山田玉造線等の道路により町を縦断する形で接続している。町道1,862号線は生活関連道路として住民要求も高いことから拡幅工事が計画された。

工事に先立ち平成13年３月29日付けで、工事予定地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて玉造町教育委員会に照会が出された。これを受けて玉造町教育委員会が工事予定地及び周辺の踏査を行なった結果、オチャク内貝塚の上部台地であり畑地には土器の散布が見られ遺跡の可能性がある旨、同年４月９日付けで回答した。平成14年３月８日に確認調査を行った結果、工事予定地内に縄文時代の遺構を確認した。周辺に周知の遺跡「オチャク内貝塚」が所在することから、この部分も「オチャク内貝塚」の一部として遺跡の範囲に含めるとともに、その保護と取り扱いについて茨城県教育庁文化課の指導の下、玉造町教育委員会と玉造町役場建設課で事前協議を実施した。その結果、現状保存が困難であることから、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査に当たっては、鹿行文化研究所の汀安衛先生の協力を得て、平成14年11月19日から11月21日の期間で調査を実施することになった。

２　調査日誌

11月19日　予備調査、試掘に基づき小型重機で表土除去開始。約２時間で終了した。その後はジョレンで遺構プランの確認。午後から１号住居跡、２号住居跡の調査を開始する。地元捻木地区から３人の方に協力をいただく。
畑地のため耕作による撹乱が見られ，道路沿いにはお茶の木が植栽されていた。

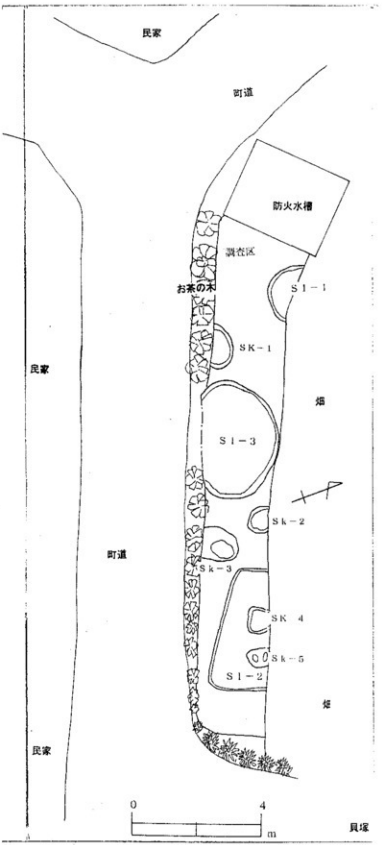
11月20日　１号住居跡、２号住居跡調査、遺物出土状態写真、実測遺物取り上げ。３号住居跡調査開始。１、２、３号土坑調査開始。住居跡は出土遺物から縄文中期の阿玉台式、加曾利Ｅ式と確認された。芋穴状の撹乱が見られる。
１号住居跡、２号住居跡の写真、平面図作成、１号土坑、２号土坑土層図、平面図作成。遺物取り上げ。

11月21日　３号住居跡調査終了写真、平面図作成。４号土坑、５号土坑調査終了平面図作成。各エレベーション作図。１号土坑調査終了し遺物、平面図、エレベーション作図。全測図作成、写真撮影の終了をもって、現場におけるすべての作業を終了する。
住居跡３軒、土坑５基が検出されたが、いずれの遺構も全掘はできずプランの約半分以下であった。

3節　調査の概要

1　遺構の検出状態（第2図）

調査区域は、前述の通り道路改良、拡幅の範囲であり、狭く長い。確認された各遺構も全掘出来たものはなかった。各遺構は調査区の西北側を1号住居跡、東端に位置する2号住居跡、中央を3号住居跡とした。遺構は1号住居跡は楕円形状プラン、2号住居跡は方形プランで掘り込みは浅い。3号住居跡は楕円形状の小竪穴状を呈していた。土坑は5基検出された。1号土坑はややフラスコ状掘り込みが見られたが2、3、4、5は不整形で底部も同様であった。遺物は、総体的に少なく完形品は皆無であり土器片の総数は遺構確認作業を合せ230片、石器4点が主なものであった。



第2図　遺構全測図

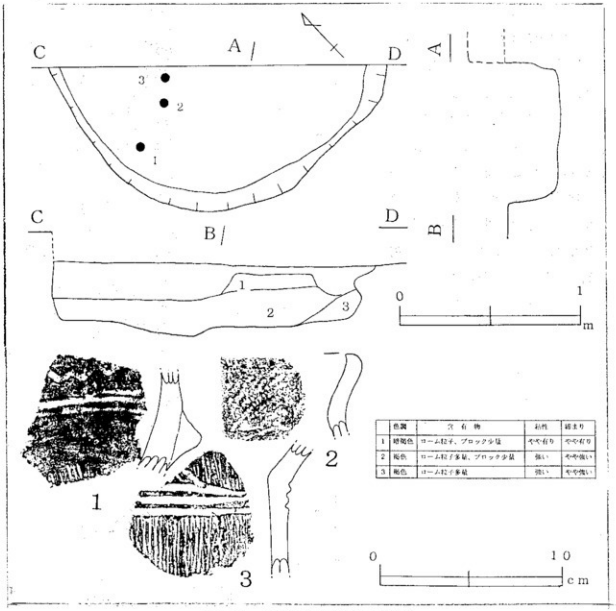
1　遺構と遺物

本調査区からは前述の様に住居跡３軒、土坑５基が検出されたがいずれも全体の1/2前後で調査区域では全掘出来なかった。遺物も少なくいずれも細片で、器形が窺えるものは皆無である。その他、石器等が４点程出土している。

以下遺構と遺物について述べる。

１号住居跡（第３図）

本遺構は調査区の西側に位置し大半をエリア外にあり、その全容は把握出来ない。検出された部分では土坑の可能性も考えられるが、一応住居跡として捉えた。検出された部分では径190㎝で円形状プランを呈し壁面は垂直に近い。掘り込みは33㎝とやや深く、底部はほぼ平坦で締まりは弱い。住居跡プランとして捉えるならば円形状の形態。より土坑的。



	色調	含有物	粘性	締まり
1	暗褐色	ローム粒子、ブロック少量	やや有り	やや有り
2	褐色	ローム粒子多量、ブロック少量	強い	やや強い
3	褐色	ローム粒子多量	強い	やや強い

第３図　１号住居跡と出土遺物

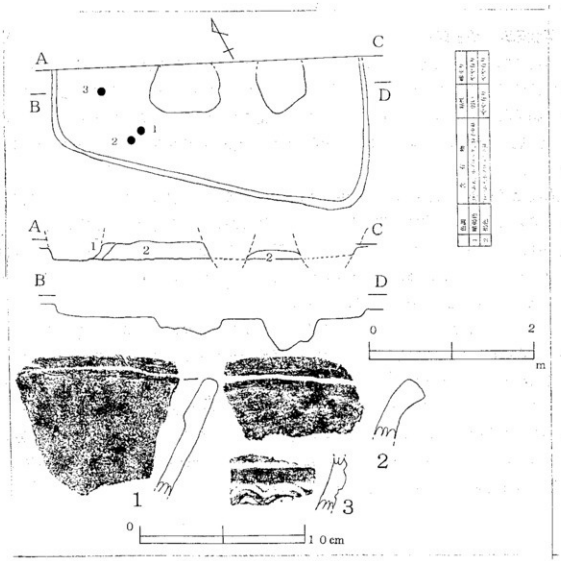
覆土は、3層に分けられ色調は暗褐色、褐色でいずれもローム粒、粒子ブロック等と締まりの差がみとめられた。上部には大きく攪乱が入り覆土もかなり変則的である。

遺物は、総数25片出土したが細片が多く図示できるものは少ない。1は頸部破片で「く」の字状に屈曲する。胎土には細石が多量に混入され小量の雲母を含む。大型の深鉢で隆帯の下部には半戴竹管による縦位の平行沈線が施文され、上部にはやや幅広な横位の平行沈線文が施文されている。

2は、口縁部が弱く外反し口唇部はやや内傾気味の深鉢形土器で胎土には多量の雲母を含む。やや小型の土器で器面には単節の縄が施文される中峠式土器口縁部。

3は、円筒部の胴部から頸部が外反する器形で、頸部との境には半戴竹管により横位に施文、上下には細かで浅く平行沈線文が施文さる。遺物からは加曾利E式初頭が推察される。

2号住居跡（第4図）



第4図　2号住居跡と出土遺物

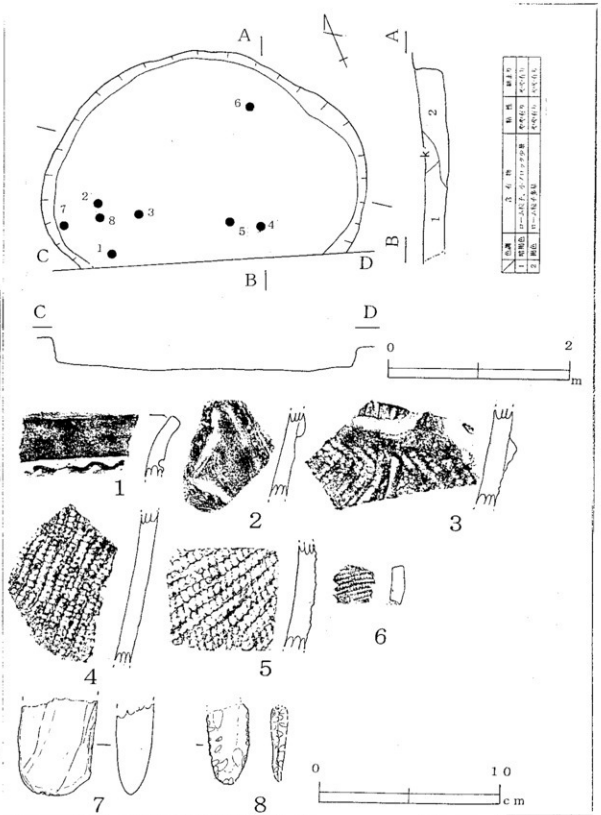
本遺構は、調査区の東端に位置し約1/2を調査区外に置くとおもわれる方形状プランを呈し東西3.9m程の規模をもつと推察される。掘り込みは浅く確認面から10cm前後であり覆土も撹乱部が多く部分的に確認されたもので暗褐色、褐色の2層が認められた。ローム粒子、ブロック、粒の混入の差で粘性は弱いが締まりはややある。床面の締まりは総じて弱く炉、柱穴は確認出来なかった。床面から2基の土坑が検出されている。遺物は、総数35片ほど出土したが図示出来るものは少なく大半が細片であった。図示した1は口縁部が肥厚する大型の浅鉢で、器面はナデ調整され口縁部内側に稜をもつ。2はやや円筒気味の器形で、口縁部は強く外反する。器面は1同様にナデ調整されるが全体に粗雑である。3は、隆帯の上下にヘラ状工具による押し引文、下部には半戴竹管による波状沈線文が施文されている。いずれの土器も胎土に少量の雲母と細石が見られる。出土した遺物は阿玉台式であり本遺物から時期は阿玉台式期が推察されるが、遺構の方形プランとはやや違和感をもつ。

3号住居跡（第5図）

本遺構は、1号住居跡と2号住居跡の間の調査区中央部に検出された遺構で約1/3を南側の道路下に位置するが、以前の道路工事において欠失している可能性が強い。住居跡は径3m前後の楕円形プランをもつ小竪穴状遺構である。掘り込みは20cm乃至40cmと検出された住居跡と比べやや深い。床面の締まりはやや弱くほぼ平坦、柱穴、炉等は検出されなかった。

遺物は総数38片ほど出土したが図示出来るものは少なく細片が多かった。1は口縁部に狭い無紋帯をもち下位に半戴竹管による波状沈線が見られる深鉢形の土器口縁部。2は波状口縁部の一部で隆帯が巡る。1、2とも阿玉台式。3は隆帯区画が見られる加曾利E式土器である。4、5は縄のみの胴部片である。いずれの土器も胎土に雲母、長石を含む。6は重さ4gの土器片錘で非常に小型である。

7、8は石器で8はロームが付着し洗浄によっても剥離面が明確に捉えることが出来ず不明確な図面になってしまった。刃部には細かな剥離が見られ基部は折れ？ではなくカットで収めている不明確な図面になってしまった。刃物部には細かな剥離が見られ基部は折れ？ではなくカットで収めている可能性も見られ長さ4.2cm、最大幅2.2cmの先頭器状の石器で古手の尖頭状石器である。7は緑泥岩を用いた石器で基部は欠失し刃部も欠失部が見られる。長さ5.5cm、幅4cmのハマグリ刃の形態をもつ磨製石斧。本遺構の時期は、出土遺物から加曾利EⅠ式前後推察される。



第５図　３号住居跡と出土遺物

1号土坑（第6図）

本土坑は、3号住居跡の西側に位置し約1/2を調査区外に置く。直径約1.5cm、掘り込みは60cmを測り底部は中央部が緩く窪む。プラン的にはフラスコ状遺構である。

遺物は中央部附近に集中してみられ、総数58片程出土している。いずれも細片で器形をうかがえる物はなかった。図示した1～4が主なものである。1は深鉢型の土器で、頸部と口縁部の間に隆帯が貼付され、口縁部は短く外反する。口縁はやや肥厚し縄が見られ下部の無紋部は半截竹管押し引きが上下に施文される。内側には顕著な稜をもつ。胎土には多量の長石を含みややもろい中峠式土器。2の口縁部は短く外反しRLの縄が施文され、以下は付加状の縄が施文される。胎土には長石、雲母が見られややもろい。3は小型の甕形土器で器肉の薄い土器で頸部は「く」の字状、縄文の地文地に半截竹管による渦文がみられる。

2号土坑（第6図）

本土坑は2号住居跡と3号住居跡の間に位置して検出された。北側はエリア外に位置し直径80cm程の楕円形状プランを呈すると思われる。掘り込みは碗状形態で深さは40cm前後。覆土は2層に分けられ暗褐色、褐色層で1層は締まり粘性とも弱く、2層は共にやや有る。埋積状態は投げ込み的層序を示す。

遺物5は隆帯区画によると思われ半截竹管による押し引き、平行沈線が見られる。胎土には長石、雲母をやや多量にふくむ。遺物から阿玉台式末の遺構と考えられる。10は川原石を利用した打製石斧で扁平な川原石を加工したもので一部火を受けている。磨耗痕が僅かに見られる。

3号土坑（第6図）

本遺構は2号土坑の南側に位置し検出され一部道路側に未調査部分を残すがほぼ完掘に近い。やや長円形状のプランを呈する。短径1m、長径1.5m前後の形態と思われる。覆土は褐色層、明褐色層に分類され粘性、締まりはやや強い。

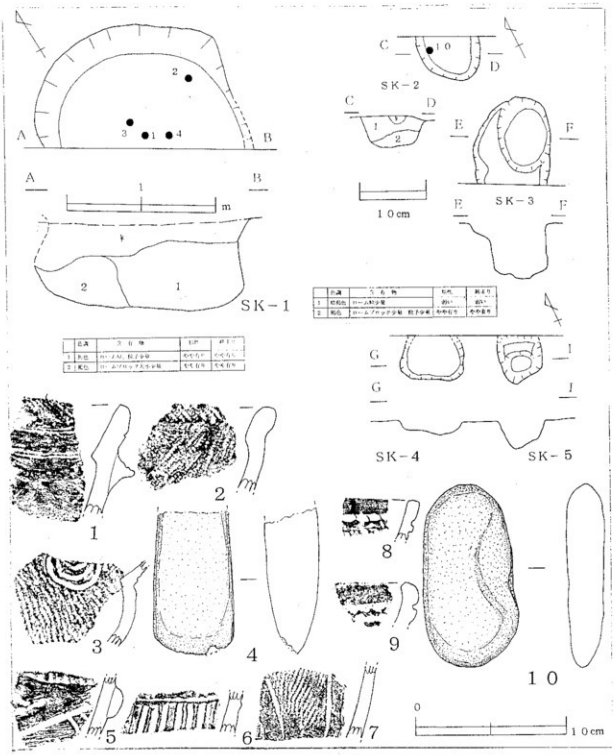
遺物は、総数6片程出土している。図示した6、7は胴部片でヘラ状工具による沈線を縦位に施文する6と縄文地に棒状工具により区画し沈線の7が見られる。

遺物からは加曾利E式の時期と推測される。

4号、5号土坑（第6図）

本遺構は、2号住居跡の床面を掘り込み検出された遺構である。やや方形状気味のプランを呈し最大幅、径85cmを測る。掘り込みは15cmほどで浅く底部は弱い（U）字状を呈する。2号住居跡の柱穴と思われたが掘り込み形態、位置から可能性は無い。5号土坑も同様な観点で捉えた。5号の場合は位置、掘り方プランから柱穴の可能性が考えられる。楕円状で長径60cm、掘り込み深さは40cmで2段に掘り込まれている。4、5号土坑合せて7片程が出土している。いずれも細片のため図示は不可能であった。

胎土等から観察して縄文時代中期の所産と推察された。8、9は4号土坑から出土した遺物で口縁部に棒状工具による刺突列が見られ時期的には加曾利E式期と推察される。



第６図　土坑１、２、３、４、５号土坑と出土遺物

総　括

本調査は前述のように道路改良工事に伴う記録保存の調査であり遺跡全体を把握することはできなかった。住居跡３軒、土坑５基、完掘したものは皆無の状態でまとまった結びはできないが、僅かな面積でも調査を行なったことにより、不明に近かったオチャク内貝塚の一端を垣間見ることができた。

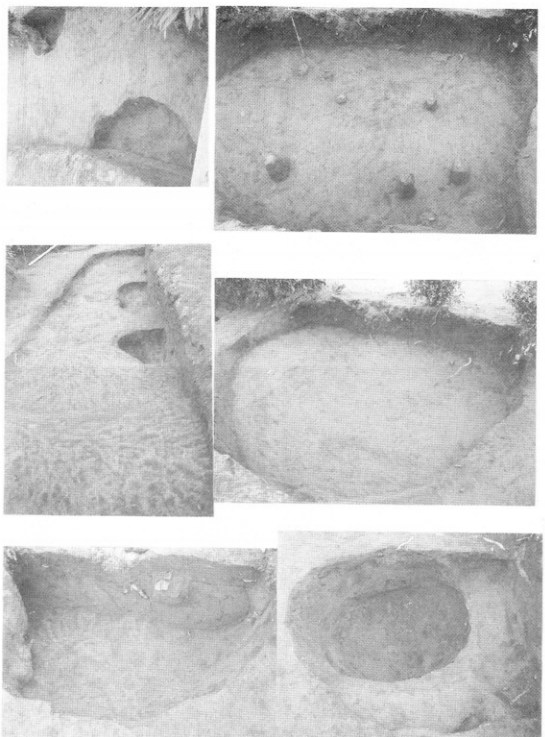
検出された遺構の性格は「小竪穴状遺構」という表現が妥当と考えられるプランであり、一部は「フラスコ状土坑」末期的掘り込み状態が見られ、遺跡の流れは阿玉台式から加曾利Ｅ式期に移行する時期が想定される。２号住居跡の方形状も見られ特異な感じをもつ。

出土した遺物からもこれらの経過を裏付ける出土を示している。少ない遺物から断定は避けなければならないが、出土した遺物の流れは前述の状態を裏付けるものであった。

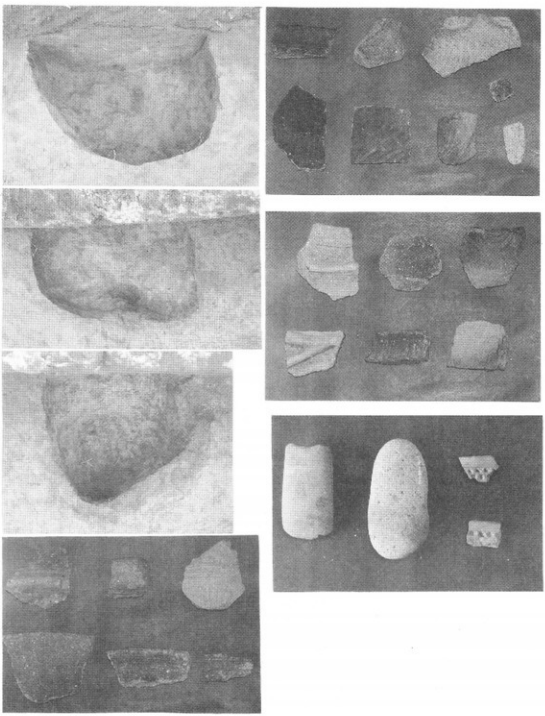
土坑ではフラスコ状のものも見られた。性格不明のものもあり特定は不可能であるが、住居跡同様、阿玉台式～加曾利Ｅ式期の遺構と推察できる。

オチャク内貝塚は表採遺物や貝種、隣接の遺跡、残存する貝塚から推察し、縄文時代中期の阿玉台式～加曾利Ｅ式期の大規模な遺跡と理解して結びに替えたい。

ＰＬ－１　調査区全景　　１号住居跡全景、出土遺物　　２号住居跡、出土遺物



ＰＬ－２　２、３号住居跡全景、出土遺物、１号土坑、２号土坑



ＰＬ－３　3号土坑、4号土坑、5号土坑　　各遺構出土遺物

抄　　録

ふりがな	おちゃくうちかいづかはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	オチャク内貝塚発掘調査報告書
発行者名	玉造町教育委員会、玉造町遺跡調査会
所　在　地	〒311-3511　茨城県行方郡玉造町乙 1179
編集者名	汀　安衛
編集機関	鹿行文化研究所
所　在　地	〒311-2211　茨城県鹿嶋市青塚 718
発行年月日	2003 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査 面積	調査原因
オチャク内 貝塚	茨城県 行方郡 玉造町捻木 489 番-1	08425	035	36° 7′ 40″	140° 25′ 15″	20021119 20021121	70 ㎡	町道改良工事に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
オチャク内 貝塚	貝塚	縄文時代 中期	住居跡　3 軒 土　坑　5 基	土器　230 点 石器　4 点	

オチャク内貝塚発掘調査報告書

印刷　２００３年３月３１日
発行　２００３年３月３１日

編集　鹿行文化研究所
発行　玉造町遺跡調査会
　　玉造町教育委員会

印刷所　（株）さんゆう社印刷